

平成25年度

自動車用品小売業協会決算報告

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

【目次】

- P-2 平成25年度 事業報告について
- P-5 平成25年度 APARA・AAAL会議・視察スケジュール
- P-10 平成25年度 活動報告
- P-16 研修会・配布物及び他団体との連携
- P-27 洗車の日2013実施
- P-29 海外・国内・視察レポート
- P-37 欧州自動車関連流通視察 報告書
- P-45 国内自動車関連業者視察 報告書
- P-48 平成25年度 役員について
- P-50 平成25年度 会員数の増減について
- P-52 平成25年度 決算書について

平成25年度年事業報告について

【平成25年度APARA活動総括】

1、テーマ「情報基地」としての組織に取り組む

APARA会員企業を取り巻く経済環境は年々厳しい状況におかれ、自動車産業界においても、お客様のニーズや利便性から、業種間の垣根がなくなってきました。

その中で協会はAPARA加盟企業が健全なる経営維持の為に、引き続き、将来の為に情報発信とリスク回避について取り組みつつ、業界全体の発展と維持の為に広義な意味で活動を行いました。

前提として、カー用品業界はAPARA結成により、業界の認知度と各企業における管理、リスク回避への取り組み(法令関連も含む)が、標準化され環境問題や法令順守は定着していますので、今後は業界全体の発展と維持の為に、官公庁への意見交換や、関連団体からの情報収集を強化し、適宜ホームページに掲載してまいりました。

2、組織の変更

(1) ジュニアボードの解散、運営局を設置

「情報発信基地」としての方針を踏まえて、総合カー用品店を中心に運営してまいりました「ジュニアボード」を解散し、専門店をいれた「運営局」を新たに設置し広くそれぞれの立場での意見交換、情報共有を実施致しました。

3、勉強会の実施

業界動向を適時学んでいくために、外部研修を含め研修会を実施・参加致しました。

【国内研修会】

- ・自動車検査法人による車検対応商品研修会(5月16日)
- ・消費税転嫁対策特別措置法のガイドライン研修会(10月23日)
- ・微弱無線局研修会(7月19日)
- ・防犯責任者養成講座(9月9日)
- ・「事故がなくなる理由～安全対策の落とし穴～」(4月19日)
- ・「日本のものづくりを支える中小企業！経営改革の実践！」(6月21日)
- ・「TPP交渉を展望する 自動車産業にとっての含意」(7月19日)
- ・「国土幹線道路部会中間答申の概要」(9月17日)
- ・「若者の暮らしと国土交通行政」(10月18日)
- ・「今後のITSの展開 Open ITS to the Next」(11月19日)
- ・「自動車業界～2013年の振り返りと2014年の展望」(12月4日)

- ・「自動車の未来」(12月17日)
- ・「どうする?高齢ドライバー安全対策」(2月20日)
- ・強い国土づくりに向けた道路インフラの今後(3月19日)

【国内業者視察】

- ・日産自動車横浜工場(10月30日)
- ・関東陸運局鮫洲試験場(10月30日)
- ・かわさき市エコ暮らし未来館(10月31日)
- ・日産自動車追浜工場(10月31日)

【海外自動車関連視察】

- ・アジア自動車関連流通視察(6月26日~7月2日)
- ・欧州自動車関連流通視察(9月20日~9月27日)
- ・北米自動車関連流通視察(11月2日~11月9日)

4、社会貢献活動に取り組む

(1) グリーンリボンドライバー運動に参画する。

「臓器移植の意思表示」告知活動を APARA 加盟店舗および事業所 2924ヶ所で実施致しました。

(2) 公益社団法人 国土緑化推進機構へ寄付

APARA 仕様の自動販売機の売上金から本年度は 21 万円寄付致しました。

5、エコプロダクツ2013について

平成25年12月12日(木)から14日(土)まで「東京ビックサイト」にて開催された「エコプロダクツ2013」への出展をし、業界及び一般ユーザーへ向けて、業界が取り組んでいる「エコ商品」や「環境に配慮した店舗作り」等をPR致しました。

6、業界としての取組

- ・店舗における熱中症対策・転倒防止等への取組
- ・整備用リフトによる事故防止への取組
- ・「万引犯罪」「夜間侵入」防止への取組
- ・不正改造車を排除する運動への取組
- ・後席シートベルト着用推進運動への取組
- ・自動車点検整備推進運動への取組
- ・自動車関係諸税の簡素化・軽減運動への取組
- ・冬タイヤ早期履き替え啓発への取組
- ・交通安全啓発への取組
- ・ガソリン携行缶使用方法啓発への取組

【平成25年度 APARA・AAAL会議・視察スケジュール】

4月

- 4月8日 毎日新聞社「洗車の日」打ち合わせ
4月9日 第66回自動車部品・用品団体連絡会
4月10日 交通タイムス社「洗車の日」打ち合わせ
4月11日 臓器移植ネットワーク打ち合わせ
4月13・14日 自動車会議所主催 交通安全アクション2013
4月15日 自動車検査法人「店舗調査」打ち合わせ
4月16日 AAAL 活性化委員会
4月19日 自動車会議所 会員研修会
「事故がなくなる理由～安全対策の落とし穴～」
4月26日 経済産業省主催 自動車政策会議
洗車の日イベント

5月

- 5月7日 AAAL海外視察打ち合わせ
5月9日 日刊スポーツ「洗車の日」打ち合わせ
日本自動車部品協会(JAPA)総会
5月10日 経済産業省主催 自動車政策会議
5月15日 AAAL スポーティングパーツ分科会
5月16日 自動車検査法人店舗調査
(株)オートバックスセブン SA東雲店
AAAL コンプライアンス委員会
自動車会議所 会員研修会
「社会インフラの老朽化問題と今後の対応」
5月20日 APARA 会計監査確定
5月21日 日本自動車マフラー協会(JASMA)総会
5月23日 日本オートケミカル工業会(JACA)総会
5月24日 第39回APARA理事会・第16回APARA定時総会
5月28日 日本自動車機械工具協会打ち合わせ
5月29・30日 NAPAC走行会

6月

- 6月4日 日本GP会総会
6月6日 AAAL 事務局会議
6月11日 第67回自動車部品・用品団体連絡会
6月13日 第78回 自動車会議所 定時総会
6月17日 AAAL欧州ツアー打ち合わせ
6月18日 自動車検査法人打ち合わせ
6月21日 AAAL スポーティングパーツ分科会
自動車会議所 会員研修会

	「日本のものづくりを支える中小企業！経営改革の実践！」
6月24日	全国万引犯罪防止機構 理事会 総会
6月25日	AAAL 幹部会
6月26日	自動車旅行推進機構 総会
6月26日～7月2日	AAALアジア視察ツアー
6月27日	国土交通省主催 第1回自動車点検整備推進協議会 日本万引防止官民合同会議
7月	
7月9日	AAAL 活性化委員会 AAAL 洗車の日分科会
7月12日	APARA 運営局 日刊自動車新聞社 2013用品大賞
7月19日	AAAL コンプライアンス委員会 自動車会議所 会員研修会 「TPP交渉を展望するー自動車産業にとっての含意ー」
7月24日	店舗調査 (株)オートバックスセブン SA横浜みなとみらい店
7月24日	店舗調査 (株)タクティー ジェームストレッサ横浜店
7月25日	AAAL 代表者会議
8月	
8月5日	店舗調査 (株)オートバックスセブン AB松本店
8月15日	店舗調査 (株)オートバックスセブン AB新潟竹尾店
8月19日	店舗調査 (株)タクティー ジェームス百合が原店
8月21日	店舗調査 (株)オートバックスセブン AB北見三輪店
8月22日	エンパイヤ自動車展示会訪問
8月26日	店舗調査 (株)イエローハット YH八軒店
8月28日	第14回愛知県万引対策協議会
8月29日	店舗調査 (株)クラフト クラフト中川店
8月30日	ジャパンDIYホームセンターショー 店舗調査 (株)オートバックスセブン ABやしろ店
9月	
9月3日	AAAL 活性化委員会

9月5日	AAAL 洗車の日分科会 店舗調査 (株)ピア YH金沢東店
9月6日	AAAL スポーティングパーツ分科会 AAAL 幹部会 店舗調査 (株)イッシン YH新宮店
9月8日	万引防止責任者養成講座
9月9日	店舗調査 (株)オートバックスセブン AB高知御座店
9月10日	店舗調査 (株)フジ・コーポレーション スペシャルブランド R1 中川店 店舗調査 (株)オートバックスセブン 高屋店 店舗調査 (株)オートバックスセブン SA徳島間屋町
9月11日	店舗調査 (株)オートバックスセブン SA東福岡店
9月13日	エコプロダクツ2013説明会 自動車旅行推進機構主催 第7回かつてに研究会
9月17日	自動車会議所 会員研修会 「国土幹線道路部会中間答申の概要」
9月19日	NAPAC走行会 自動車会議所主催 自動車税制改革フォーラム
9月20日～27日	AAAL ヨーロッパ視察ツアー
9月27日	国土交通省主催 タイヤ騒音規制検討会 EV・PHVタウンシンポジウム
10月	
10月2日	APARA 洗車の日分科会 店舗調査 (株)オートバックスセブン AB富山北店
10月3日	総務省 無線設備試買テストに関する打合せ
10月7日	盗難防止の日キャンペーン 視察 店舗調査 (株)オートバックスセブン SA仙台ルート45店 店舗調査 (株)イエローハット YH東仙台店
10月8日	第68回自動車部品・用品団体連絡会
10月9日	総務省 ガソリン携行缶使用上の注意対策告知説明会 店舗調査

	(株)タクティー ジェームス西桔梗店
10月11日	AAAL 活性化委員会 店舗調査
	(株)オートボックスセブン AB松江店
10月15日	店舗調査
	(株)オートボックスセブン ABニューマチナト店
10月16日	AAAL 代表者会議
10月17日	店舗調査
	(株)オートボックスセブン SAサンシャインKOBEB店
	店舗調査
	(株)イエローハット YH魚住店
10月18日	自動車会議所 会員研修会 「若者の暮らしと国土交通行政」(国土交通白書2013より)
10月23日	経済産業省主催 消費税引上げ対策情報交換会
10月24日	NAPAC総会懇親会
10月25日	APARA 運営局
10月28日	国土交通省主催 タイヤ騒音規制討論会ヒアリング
10月30日～31日	AAALコンプライアンス委員会 業者視察
11月	
11月2日～9日	AAALSEMA(北米)視察ツアー
11月11日	店舗調査
	(株)ホリデーオート YH南風原店
11月19日	自動車会議所 会員研修会 「今後のITSの展開 Open ITS to the Next」
11月22日	APARA 上期報告会・第40回 APARA理事会
11月23日	自動車会議所主催 自動車税制改革フォーラム
12月	
12月4日	自動車会議所 会員研修会 「自動車業界～2013年の振り返りと2014年の展望」
12月5日	AAAL 幹部会 AAAL スポーティングパーツ分科会
12月10日	第69回自動車部品・用品団体連絡会
12月12日	AAAL コンプライアンス委員会
12月12日～14日	エコプロダクツ2013
12月17日	自動車会議所 会員研修会 「自動車の未来」
12月19日	中央労働災害防止協会主催 意見交換会
12月26日	AAAL 代表者会議
1月	
1月10日	電池工業会 年賀会

	機械工具2団体 年賀会
1月16日	オートモーティブ ワールド 2014
1月17日	JACA・JAAMA年賀会
1月22日	APARA 運営局
1月23日	自動車会議所主催 自動車税制改革フォーラム 日本自動車部品工業会 新年懇親会
1月27日	全国万引犯罪防止機構理事会
1月28日	自動車リサイクル部品協議会総会
2月	
2月3日	羽鳥会計事務所 決算スケジュール事前打ち合わせ
2月4日	(株)ソフト99 コーポレーション訪問
2月5日	自動車会議所主催 自動車税制改革フォーラム 印刷技術協会主催 Page2014
2月5日～7日	ギフトショー春2014
2月6日	AAAL 洗車の日分科会
2月12日	第70回自動車部品・用品団体連絡会
2月13日	JAAMA総会 大阪オートメッセ2014 前夜祭
2月14日～16日	大阪オートメッセ2014
2月18日	中央労働災害防止協会主催 流通団体懇談会 国土交通省主催 不正改造防止推進協議会
2月19日	EMC レボリューションフェア2014 (エンパイヤ自動車展示会)
2月20日	AAAL コンプライアンス委員会 自動車会議所 会員研修会 「どうする?高齢ドライバー安全対策」
2月24日	日経ビジネスフォーラム 全国二輪車用品連合会第5回通常総会
3月	
3月3日	自動車会議所主催 交通安全アクション2014担当者会議 理事会社訪問
3月5日	国土交通省主催 自動車点検整備推進協議会
3月6日	理事会社訪問
3月10日	日経新聞石油連盟主催シンポジウム 「石油の力。」～安定的に石油製品をお届けするために～ 理事会社訪問
3月11日	理事会社訪問
3月12日～14日	第12回IAAE
3月17日	AAAL 幹部会
3月18日	第1回日刊自動車新聞シンポジウム

2月19日	自動車会議所 会員研修会 「強い国土づくりに向けた道路インフラの今後」
3月20日	第41回 APARA理事会
3月24日	国土交通省主催 タイヤ騒音規制検討会
3月26日	理事訪問
3月27日	AAAL 代表者会議
3月28日	経団連会館 平成26年度総会打ち合わせ
3月31日	日刊自動車新聞社「洗車の日」打ち合わせ

【平成25年度活動報告】

APARA運営局

今期の方針:事業計画に基づき、協会活動の方向性と実施にあたり具体的な検討をおこなう。

	会社名	部署・役職	氏名
メンバー	株式会社 イエローハット	取締役	木村 義美
メンバー	株式会社 オートアールズ	経営企画部グループマネージャー	鈴木 順一
メンバー	株式会社 オートボックスセブン	取締役 専務執行役員	森本 弘徳
メンバー	株式会社 タクティー	取締役	杉山 正司
メンバー	住友ゴム工業株式会社	営業本部リテール部部長	志賀 美也
メンバー	株式会社トーヨータイヤジャパン	消費材販売部係長	吉井 克行
メンバー	ブリヂストンリテールジャパン株式会社	チェーン運営本部長	廣崎 嘉一
メンバー	株式会社 ヨコハマタイヤジャパン	販売促進部グループリーダー	赤池 隆史
メンバー	株式会社クラフト	営業企画部部長	加藤 道弘
メンバー	株式会社ヤマウチ	取締役	小島 和雄

日程	主な議題	出席者	会場
2013/7/12 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・運営局の位置付け ・情報の取りまとめについて ・売上数字の集計について ・グリーンリボン運動について ・エコプロダクツ 2013 について ・日刊自動車新聞社用品大賞 2013 について ・今後のスケジュールについて 	10名	APARA 事務局
2013/10/25 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度APARA活動テーマについて ・平成25年度APARA上期中間報告会について ・エコプロダクツ 2013 について ・消費税関連について ・タイヤ騒音規制について 	10名	APARA 事務局

	・AAAL関連について		
2014/1/22(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年「活動テーマ」について ・タスクについて ・勉強会の実施について ・その他 	7名	(株)タクティ 本社会議室

APARA/AAAL コンプライアンス委員会

今期の活動内容:法令関連の勉強会及び現行法令を踏まえたうえで、社会のニーズに合った規制の勉強について検討する。

	所属団体	企業名	氏名
委員長	APARA	(株)オートボックスセブン	高瀬 基充
メンバー	APARA	(株)イエローハット	菊池 孝史
メンバー	APARA	(株)タクティ	井浦 昌之
メンバー	APARA	ブリジストンリテールジャパン (株)	東 隆弘
副委員長	NAPAC	(株) カーレグ	深澤 広司
メンバー	NAPAC	(株) トムス	舘 直樹
メンバー	NAPAC	トピー実業 (株)	泉谷 吉一
メンバー	JACA	エステーオート(株)	棚橋 公三
メンバー	JASMA	(株)エッチ・ケー・エス	長谷川 浩之

日程	主な議題	出席者	会場
2013/5/16 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車検査法人より店舗調査報告 ・自動車検査法人との意見交換 ・本年度の計画と課題について ・本年度のリーダー任命 ・今後のスケジュールについて 	15名	(株)オートボックスセブン豊洲本社
2013/7/19 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・関東総合通信局による不法電波についての勉強会 ・業者視察について ・エコプロダクツ 2013 について 	25名	APARA 事務局
2013/10/30 (水) ～31 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・日産自動車横浜工場(エンジンの組み立て)視察 ・日産自動車追浜工場(車体の組み立て)視察 ・鮫洲車検試験場視察 ・かわさきエコ暮らし未来館にてゴミ処理及び太陽光発電視察 	15名	各視察先
2013/12/12 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車検査法人様との意見交換 ・各団体より最近の動向 ・その他 	5名 (10名)	東京ビック サイト

2014/2/20 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・今期の振り返りについて ・来期の議題について ・開催スケジュールについて ・その他 	12名	APARA 事務局
---------------	---	-----	--------------

APARA/AAAL活性化委員会

今期の活動内容:製販一体となり、業界の活性化に取り組む

	所属団体	企業名	氏名
委員長	JAAMA	株式会社ナポレックス	伊井 孝雄
メンバー	JAAMA	株式会社ボンフォーム	矢野 弘行
メンバー	JAAMA	株式会社カーメイト	森田 幸弘
副委員長	NAPAC	株式会社PIAA	三枝 英治
メンバー	NAPAC	株式会社タカマコンペティションプロダクト	柴 正雄
メンバー	NAPAC	株式会社カーレグ	深澤 広司
メンバー	APARA	(株)イエローハット	粕谷 英道
メンバー	APARA	(株)オートバックスセブン	澤田 秀樹
メンバー	APARA	(株)タクティー	上杉 和行
メンバー	JACA	エステーオート(株)	菅野 正
メンバー	JACA	(株)タイホーコーザイ	梶原 康弘
メンバー	JACA	(株)ソフト99コーポレーション	盛 輝幸
メンバー	JASMA	(株)エッチ・ケー・エス	長谷川 浩之

日程	主な議題	出席者	会場
2013/4/16 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・各分科会より報告 ・新たな記念日について ・AAAL海外視察について 	15名	APARA 事務局
2013/7/9 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・各分科会より報告 ・アジア自動車関連視察ツアー実施報告 	15名	APARA 事務局
2013/9/3 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・公正取引委員会への対応 ・各分科会より報告 ・ヨーロッパ・北米海外視察について 	18名	APARA 事務局
2013/10/11 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・洗車の日取り組みについて各団体より報告 ・各分科会より報告 ・ヨーロッパ自動車関連視察ツアー報告 ・北米自動車関連視察ツアーについて 	19名	APARA 事務局

APARA/AAAL 洗車の日分科会

今期の活動内容:2013洗車の日を踏まえて、2014洗車の日に如何に取り組むか検討。

	所属団体	企業名	氏名
リーダー	JACA	エステーオート(株)	菅野 正
メンバー	JACA	(株)タイホーコーザイ	梶原 康弘
メンバー	JACA	(株)ソフト99コーポレーション	盛 輝幸
メンバー	JAAMA	株式会社ボンフォーム	矢野 弘行
メンバー	JAAMA	株式会社カーメイト	森田 幸弘
メンバー	APARA	(株)イエローハット	原嶋 一昌
メンバー	APARA	(株)オートバックスセブン	守屋 悟
メンバー	APARA	(株)タクティー	井口 卓

日程	主な議題	出席者	会場
2013/7/9 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・洗車の日2014に向けて方針策定 ・担当団体について ・実施規模について 	9名	APARA 事務局
2013/9/3 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・洗車の日に向けて各団体より2012洗車の日 の反省点を踏まえて、2013洗車の日 の具体的な施策について 	10名	APARA 事務局
2013/10/2 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・APARAとしての洗車の日 の取り組みを検討 (APARA会員のみ) 	5名	APARA 事務局
2014/2/6 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・洗車の日2014の記者会見の ①進め方、②配布資料など、 打合せ致します。 ・記者発表会について日時: 会場 ・2014年3月27日(木)13:00 を予定会場/未定 ・発表内容:概要・各企業の 取り組み・その他 ・洗車イベントについて 	13名	APARA 事務局

AAAL スポーティングパーツ分科会

今期の活動内容:一般ユーザーにスポーティングパーツを如何に告知するか検討

	所属団体	企業名	氏名
リーダー	NAPAC	(株)カーレック	深澤 広司
	NAPAC	PIAA(株)	三枝 英治
	NAPAC	(株)タカマコンペティションプロダクト	柴 正雄
	JASMA	(株)エッチ・ケー・エス	長谷川 浩之
委員	APARA	(株)オートバックスセブン	長野 健一
委員	APARA	(株)タクティー	勝浦 史隆
委員	NAPAC	(株)タカマコンペティションプロダクト	柴 正雄

日程	主な議題	出席者	会場
2013/5/15 (月)	<ul style="list-style-type: none"> ・NAPAC走行会視察について ・カスタマイズカルテの制作について ・カスタマイズ大賞の企画について 	8名	APARA 事務局
2013/6/21 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・NAPAC走行会視察について ・カスタマイズカルテの制作について ・カスタマイズ大賞の企画について 	10名	APARA 事務局
2013/9/6 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・NAPAC走行会視察について ・カスタマイズカルテの制作について ・カスタマイズ大賞の企画について 	7名	APARA 事務局
2013/12/5 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーティングパーツに関する勉強会の開催について ・車種別パンフレット作成について ・その他 	8名	APARA 事務局

平成25年度 第1回 AAAL代表者会議開催

日 時 平成25年7月25日 (木) 15:00～17:00
 場 所 APARA事務局
 議 題 1) 各委員会・分科会からの報告
 2) 海外視察の報告
 3) 各団体からの報告

平成25年度 第2回 AAAL代表者会議開催

日 時 平成25年10月16日 (水) 15:00～17:00
 場 所 APARA事務局
 議 題 1) 来期の活動について
 2) 2014洗車の日について
 3) 海外視察報告

平成25年度 第3回 AAAL代表者会議開催

日 時 平成25年12月26日 (木) 15:00～17:00
 場 所 JACA日本オートケミカル工業会 新事務所
 議 題 1) 来期のAAAL活動について
 2) 各委員会・分科会からの報告
 3) 来期の海外視察ツアーについて

平成25年度 第4回 AAAL代表者会議開催

日 時 平成25年3月27日 (木) 14:30～16:45
 場 所 アルカディア市ヶ谷
 議 題 1) 来期の運営について

- 2) 来期の海外視察について
- 3) 洗車の日発表について
- 4) その他

平成25年度 第1回 AAAL幹部会開催

- 日 時 平成25年6月25日(火) 13:00~14:00
場 所 APARA事務局
議 題 1) 平成25年度活動スケジュールについて
2) 各団体の役割について
3) 海外視察について

平成25年度 第2回 AAAL幹部会開催

- 日 時 平成25年9月6日(金) 9:30~11:30
場 所 APARA事務局
議 題 1) 下期の活動計画について

平成25年度 第3回 AAAL幹部会開催

- 日 時 平成25年12月5日(木) 13:00~14:30
場 所 APARA事務局
議 題 1) 代表者会議に向けて来季の海外視察について
2) 1月から3月までのスケジュールの確認
(委員会、分科会の内容も含む)
3) その他

平成25年度 第4回 AAAL幹部会開催

- 日 時 平成26年3月17日(月) 15:00~17:00
場 所 APARA事務局
議 題 1) 代表者会議に向けて
2) 洗車の日記者発表について
3) 海外視察について。
4) その他

研修会・配布物及び他団体との連携

【自動車検査法人による車検対応商品研修会に参加】

平成25年5月16日、不正改造防止キャンペーンの一環で実施している自動車検査法人による、取り付け場所によっては不正改造になる可能性のある商品の勉強会を実施いたしました。これは保安基準に基づき適正な位置に取り付けずれば問題ない商品でも「フロントガラス」など取り付けてはいけない場所にお客様が誤って取り付けないように、パッケージやPOPに掲載しているかどうかの勉強会となりました。実際の商品を実



店舗で調査をしたのちに実施した。また今回の目的は検査法人側の見解が各地域で異なるものを、統一するために全国の検査部及び軽自動車検査部の皆さんを、実店舗に招き店舗で販売している商品を見てもらい、パッケージ表記や仕様写真で誤解を招くものがないか、また取り付けについて検査部の認識を統一していただきました。

このあとは、検査部から調査報告書の提出を頂き、その後は個別店舗に訪問する予定となります。

【小型家電リサイクル法施行について】

平成25年4月1日から、小型家電リサイクル法が施行されました。各市町村の受け入れ態勢によりスタート時期は異なりそうですが、簡単にまとめた概要をAPARAホームページの動画に掲載いたしました。

対象となるカー用品品目は カーナビ、テレビ、カーチューナ、カーステレオ、カーラジオ、カーCD プレーヤ、カーDVD、カーMD、カースピーカ、カーアンプ、VICS ユニット、ETC 車載ユニットなど。

【熱中症対策について】

昨年に引き続き、「熱中症対策」の一環として、情報共有をおこないました。

- ① 新聞記事の配信
- ② 中央労働災害防止協会作成の小冊子の配布



【店舗における「転倒、転落災害」防止について】

小売業における事故というのは、様々な状況で発生致します。その中での「転倒、転落災害」が、占める割合は4割近くあります。

事故を未然に防ぐ方法として、以前から「4S」（整理・整頓・清掃・清潔）が、いわれており、各企業様の中では既に「安全衛生推進者」「安全管理者」を置き、月1回以上「安全

衛生委員会」を開催されております。その際ご活用できる、「転倒、転落災害」のポイントを解説したり、チェックリストを配布いたしました。

【整備用リフトによる事故を防止について】

整備用リフトによる事故は、平成10年～20年までに計222件（死亡7名、負傷46名、車両損害181台）発生しております。

2012年度一年間に起きたリフト事故は25件となり前年より7件の増加となった。事故原因は「取扱不良」15件、「点検不履行」13件となる。

A P A R Aでは事故防止ポスターをデータ配信し、加盟企業へ情報提供と事故防止の啓発に努めました。



【タイヤ騒音規制検討委員会に参加】

自動車の走行時における騒音対策として我が国ではこれまで車両に対する騒音規制を実施し、次の規制強化を通じてエンジン等に起因する騒音の低減が進んだ結果、自動車の走行時における騒音に占めるタイヤの寄与率が相対的に高くなってきていることから、今後タイヤ騒音の低減対策として国連欧州経済委員会（UN/ECE）において策定された国際基準である ECE Regulation No. 117 Revision 2 (R117-02) を国内に導入することが有効とし、昨年4月の中央環境審議会「今後の自動車単体騒音低減対策のあり方について（第二次答申）」において、四輪車を対象としてR117-02のタイヤ騒音規制を国内導入することが提言されました。

環境省・国土交通省は「タイヤ騒音規制の実施時期検討」の為に、A P A R Aも会合に参画し、タイヤメーカー・自動車メーカーの事業者と業界団体を、意見公開・ヒヤリング実施し、実施時期などの検討を行っています。

【消費税転嫁対策特別措置法のガイドライン研修会に参加】

公取委・消費者庁・財務省が、本年10月1日に公表された消費税転嫁対策特別措置法の円滑な施行に向けての勉強会および意見交換会にA P A R Aも参画いたしました。

消費税転嫁対策特別措置法のガイドラインや会議内容の情報を会員各社と情報共有しながら、会員各社からの質問等、必要に応じてA P A R A事務局から、関係省庁に問い合わせ等をおこない法令に抵触しないよう啓発をおこないました。

【微弱無線局研修会に参加】

カー用品店で近年多く販売されている「FMトランスミッターを使用する機器」が法令に抵触する恐れがあるため、「関東総合通信局」様により勉強会を実施いたしました。また

総務省は「無線整備試買テスト実施」を公表されたため、「試買テストの運用および公表の方法」等についても、併せて意見交換を実施いたしました。

微弱無線局の規定

無線設備から3メートルの距離での電界強度(電波の強さ)が次の図に示されたレベルより低いものであれば無線局の免許を受ける必要はありません。
 総務省告示で定められている試験設備の内部のみで使用する無線設備については、試験設備の外部における電界強度が3mの距離における電界強度に補正した値が次の図に示されたレベルより低いものであれば、無線局の免許を受ける必要はありません。人の生体内に植え込まれた状態又は一時的に留置された状態でのみ使用する無線設備については、その外部における電界強度が3mの距離における電界強度に補正した値が、次の図に示されたレベルより低いものであれば、無線局の免許を受ける必要はありません。また、周波数や用途など制限はありません。

【図：微弱無線局の3mの距離における電界強度の許容値】

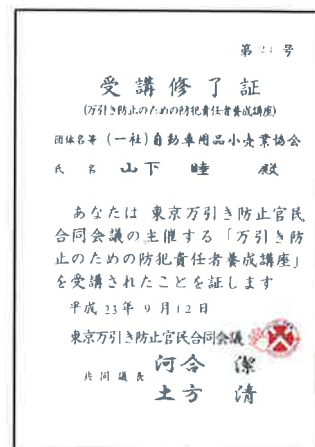


2. 無線設備から500メートルの距離での電界強度(電波の強さ)が、 $200\mu\text{V}/\text{m}$ 以下のもので、周波数などが総務省告示で定められている無線遠隔操作を行うラジコンやワイヤレスマイク用などのものは、無線局の免許を受ける必要はありません。
 Copyright(C)Telecommunications Bureau of the Ministry of Internal Affairs and Communications All Rights Reserved.

【防犯責任者養成講座に参加】

9月9日(月)に全国万引犯罪防止機構様による「万引防止の為の防犯責任者養成講座」が開催されA P A R A加盟企業と共に参加致しました。当日は警視庁生活安全総務課長の山口寛峰様が挨拶をし、その後3時間の講義が実施。

講義は①万引に対する対応、②防犯環境設計基準、③補足時の対応と地域の絆づくり。となり、終了後には「受講終了証」が交付しております。



【全国万引犯罪防止機構・各県警と情報交換および連携】

A P A R Aでは「万引犯罪」「夜間侵入」防止の為に、全国万引犯罪防止機構様を通じて、各警察関係との情報交換をおこなっています。

本年度も「全国万引犯罪防止機構」を通じて官民合同会議にて現状把握と防止策の対応や「警察庁」「警視庁」「愛知県警」との意見交換会をおこないました。



【自動車会議所主催の会員研修会に参加】

テーマ：「事故がなくなる理由～安全対策の落とし穴～」

講師：立教大学 現代心理学部教授 芳賀 繁(はが・しげる) 氏

日時：平成25年4月19日(金) 15:00～16:30

会場：日本自動車会館 1階 「くるまプラザ」会議室

テーマ：「社会インフラの老朽化問題と今後の対応」

～適切な維持管理・更新の仕組み作りについて～

講師：(株)野村総合研究所 社会システムコンサルティング部長 神尾 文彦氏

日時：平成25年5月16日(木) 15:00～16:30

会場：日本自動車会館 1階 「くるまプラザ」会議室

テーマ：「日本のものづくりを支える中小企業！経営改革の実践！」

～男の世界の製造業。女だからこそ早く結果を残したかった～

講師：ダイヤ精機(株)社長 諏訪 貴子 氏

日時：平成25年6月21日(金) 15:00～16:30

会場：日本自動車会館 1階 「くるまプラザ」会議室

テーマ：「TPP 交渉を展望するー自動車産業にとっての含意ー」

～日本の自動車産業は TPP から何をメリットとして獲得できるか？～

講師：慶応義塾大学 総合政策部 教授 渡邊 頼純 氏

日時：平成25年7月19日(金) 15:00～16:30

会場：日本自動車会館 1階 「くるまプラザ」会議室

テーマ：「国土幹線道路部会中間答申の概要」

～今後の高速道路政策の方向性と課題について～

講師：専修大学 教授 太田 和博 氏(国土幹線道路部会委員)

日時：平成25年9月17日(金) 15:00～16:30

会場：日本自動車会館 1階 「くるまプラザ」会議室

テーマ：「若者の暮らしと国土交通行政」(国土交通白書2013より)

～若者のクルマ離れは進んでいるのか～

講師：国土交通省総合政策局政策課 政策調査室長 要藤 正任 氏(ようどう まさとう)

日時：平成25年10月18日(金) 15:00～16:30

会場：日本自動車会館 1階 「くるまプラザ」会議室

テーマ：「今後の ITS の展開 Open ITS to the Next」

～ITS のつくる社会とモビリティ～

講師：特定非営利活動法人 ITS Japan 専務理事 天野 肇 氏

日時：平成25年11月19日(火) 15:00～16:30

会場：日本自動車会館 1階 「くるまプラザ」会議室

テーマ：「自動車業界～2013年の振り返りと2014年の展望」

講師：シティグループ証券(株) 株式調査部 ディレクター 吉田 有史 氏

日時：平成25年12月4日(水) 15:00～17:00

会場：日本自動車会館 1階 「くるまプラザ」会議室

テーマ：「自動車の未来」～オートモビルか？ポストオートモビルか？～

講師：評論家・ジャーナリスト 立花 隆 氏

日時：平成25年12月17日(火) 14:00～16:00

会場：日本自動車会館 1階 「くるまプラザ」会議室

テーマ：「どうする？高齢ドライバー安全対策」

～高齢運転者の属性分類と支援方策～

講師：東京大学大学院工業系研究科 准教授 小竹 元基(しの もと基) 氏

日時：平成26年2月20日(木) 14:00～15:30

会場：日本自動車会館 1階 「くるまプラザ」会議室

テーマ：強い国土づくりに向けた道路インフラの今後

～国土強靱化法を踏まえた道路や橋梁などのインフラ維持管理、更新や防災対策～

講師：国土交通省道路局国道・防災課道路防災対策室 企画専門官 淡中 泰雄 氏

日時：平成26年3月19日（水）15：00～16：30

会場：日本自動車会館 1階 「くるまプラザ」会議室

【業界団体としての活動】

【グリーンリボン運動について】

本年度の社会貢献活動として、7月1日よりAC広告で放映されている、「臓器移植の意思表示の推進」に、取り組みました。健康保険証や免許証の裏に意思表示欄がある事を多くの方に知って頂くために、運転免許をお持ちの方がお越しになる、APARA加盟の店舗で「ポスターの掲示」と「リーフレット」を休憩所に設置して啓発をおこないました。



不正改造車を排除する運動に参加

国土交通省及び自動車関係33団体で構成する「不正改造防止推進協議会」に参加し、内閣府、警察庁、農林水産省、経済産業省及び環境省の後援並びに自動車検査独立行政法人、軽自動車検査協会の協力のもとに運動を実施する。「不正改造車を排除する運動」は、年間を通じた運動ですが、平成25年6月1日（土）から6月30日（日）までの1ヶ月間を「不正改造車排除強化月間」とし、特に重点をおいて運動を実施いたしました。

加盟企業及び店舗にはポスターを配布し、啓発活動をおこなった。



後席シートベルト着用推進運動に参加



日本自動車会議所では、交通安全事業の重点項目の一つに「後席シートベルト着用推進」を掲げており、交通事故根絶を目指した取り組みの一環として、平成20年から毎年2回、夏季行楽シーズン（足柄SA）と秋の全国交通安全運動期間中（東北自動車道羽生PA）に街頭キャンペーンを行っている。今回は、タイヤアップによる訴求効果の向上を目指して、静岡県の本キャンペーンに参画するものである。

後席シートベルトの着用は平成20年6月に義務化され、その着用率は徐々に向上してきているが、警察庁とJAF（日本自動車連盟）が毎年実施している「シートベルト着用状況全国調査」（平成23年10月実施）によると、高速道路における着用率は63.5%と前年に比べて0.2ポイント低下している。また、運転者（99.3%、前年比+0.1ポイント）や助手席同乗者（97.3%、同+0.3ポイント）に比べると非常に低いレベルにとどまっており、後席シートベルトの安全に対する意識は、未だ希薄であると言わざるを得ない状況にある。このため、「後席シートベルトの着用率向上」を図るためには、現場での更なる周知・啓発活動が必要であるとの認識から、APARA加盟店舗にはポスターを配布して、お客様に見える位置に掲示する事で啓発をおこなった。

自動車点検整備推進キャンペーンに参加

国土交通省、自動車関係30団体で構成する「自動車点検整備推進協議会」に参加。自動車は、国民の生活や経済の発展に必要不可欠なものであり、十分に定着した移動手段となっている。一方、大型車の車輪脱落事故や車両火災事故の防止を含む自動車の不具合による事故が発生している。環境面においても、排出ガスによる大気汚染や地球温暖化問題への対応が重要となっている。本来、自動車ユーザーには、自動車の不具合による事故の防止や環境保全を図ることを目的として、自動車の点検・整備の実施が義務付けられているが、その実施状況は十分ではない。以上のことから、「不正改造車を排除する運動」や「ディーゼルクリーン・キャンペーン」と連携を図りつつ、「自動車点検整備推進運動」を全国的に展開することにより、自動車ユーザーに適切な点検・整備の実施の必要性を理解してもらうとともに、大型車のユーザーにあっては、ホイールの取付状態や燃料装置等について、より確実な点検整備の実施を求める。



自動車関係諸税の簡素化・軽減の実現に向け「消費8%時点での自動車取得税の3%引き下げ」などを要望

要望書では、これまで一貫して政府・与党に強く要望してきた「複雑で過重な自動車関係諸税の簡素化・負担軽減」を最重点要望としている。「車体課税の抜本的見直し」、「燃料課税の抜本的見直し」を二本柱として掲げ、具体的には、▽消費税8%時点での自動車取得税の3%引き下げ及びエコカー減税の拡充、▽消費税10%時点での自動車取得税の確実な廃止、▽一般財源化され課税根拠を失った自動車重量税の廃止、▽自動車税は、国際的に適正である軽自動車税の水準に見直し、▽ガソリン税、軽油引取税に上乘せされた「当分の間の税率」（旧暫定税率）の廃止、ガソリン税のTax on Taxの解消——を要望していくことにしている。



次に、消費税率引き上げの影響の緩和と、環境性能に優れた自動車の普及促進のため、「自動車税のグリーン化特例の拡充・延長」を要望。今年度末に期限が切れる自動車税のグリーン税制の延長、グリーン化特例が適用されていないクリーンディーゼル自動車を対象に追加することなどを求めた。

続いて、自動車取得税廃止等に伴う財源確保のための増税論があることから、「自動車取得税の廃止・軽減による代替財源の確保や、地方の安定的な財源確保などを理由とした自動車関係諸税（車体・燃料課税）の増税および安易な新税等の創設には、断固反対」と訴えた。

このほか、消費税率引き上げによる影響が大きい3つの要望を重点要望事項とした。

まず、「福祉車両の仕入れに係る消費税の取り扱いに関する見直し」を要望。というのも、「福祉車両を製造・販売する事業者は、そのベース車両を含む仕入れ段階に係る消費税負担については、仕入税額控除ができず、事業者負担が生じている」からだ。このため、「ユーザーや事業者への負担が生じないように、福祉車両に対しては、従来通り、仕入控除の適用などの措置を講じるべき」と求めた。

また、中古車市場への影響を鑑みて、「中古車の取引に関する消費税の特別措置の継続」を要望した。消費税率の引き上げに伴い、中古車の取引に関する特例措置が見直されれば、中古車販売店への経済的打撃や中古車市場の崩壊の恐れだけでなく、整備不良の中古車が大量に出回る懸念なども指摘されている。このため、「消費税率の引き上げに伴い、複数税率が導入され、その結果、インボイスが義務付けられた場合でも、消費者から仕入れた中古車については、現行の請求書等保存方式（帳簿方式）による仕入税額控除を可能とすべき」と訴えた。

最後に、日本企業は経済のグローバル化や新興国の台頭により、「熾烈な国際競争にさらされている」として、「経済の活性化、国内における投資や雇用の維持・拡大に向けた税制措置」を要望。具体的には、①法人実効税率の引き下げ、②投資促進税制の創設、③償却資産課税の抜本的見直し、④中小企業投資促進税制の拡充・延長、⑤中小企業法人税率の引き下げ、⑥税法上の中小企業定義の見直し——という6つの要望事項を掲げ、「国内市場活性化と国際競争力を強化し、国内生産と雇いを維持するため、政府による積極的な支援策」を要望した。

【ガソリン携行缶本体に注意事項】

本年8月に発生した「福知山市花火大会火災」の状況を踏まえ、消防庁と関連団体が協議を重ね、一般ユーザーに「使用上の注意事項」を啓発する目的で、「ガソリン携行缶本体に注意事項を表示したステッカー」を添付する事とし、順次入れ替え作業を実施。

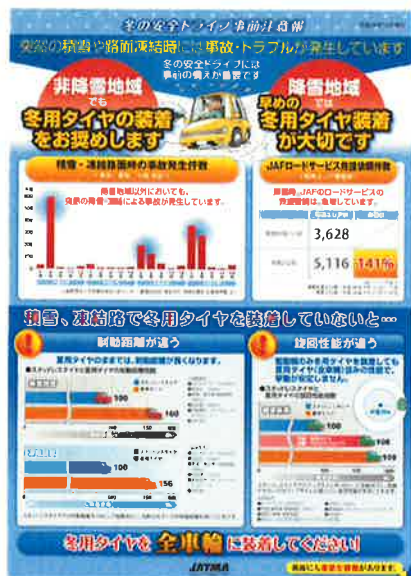
【冬タイヤ早期履き替えの取り組み】

昨年の冬、都心部を中心に、例年になく降雪となりスタッドレスタイヤに交換していない車両が、「一般道路」で多数立ち往生いたしました。

その為、緊急車両走行の妨げになった事例がいくつもみられた為、今年は業界をあげて、国土交通省と一般社団法人自動車タイヤ協会が中心となり、「冬用タイヤ早期装着」のチラ

シを作成し、ドライバーの皆さんに啓発活動を行いました。

A P A R A加盟店舗でも、多くのお客様へ「告知」していただく為に、チラシリーダーを配信し、各店舗での告知活動を実施していただいております。またA P A R Aホームページでも啓発活動を実施いたしました。



【交通安全。アクション2013】に参加

日本自動車会議所主催の体験型交通安全啓発イベント「交通安全。アクション2013」に、4月13日、14日の両日、A P A R Aとして参加し「交通安全約束手形」のブースを手伝いました。場所は江東区青海の複合アミューズメント施設「パレットタウン」内の「メガウェブ」で、大勢の家族連れやカップルなどで賑いました。大人も子どもも楽しめるブースプログラムやステージプログラムの企画・運営に努めるなど、参画した団体や企業のスタッフが趣向を凝らしてイベントを盛り上げたことに加え、両日も春らしい好天に恵まれたこともあり、来場者は2日間で前年を上回る約4,500人（主催者推計）に達し、また各ブースの体験者数も延べ約9,500人に上り、今回も盛況のうちに幕を閉じました。



このイベントは、例年、春の全国交通安全運動期間にあわせて開催。内閣府、国土交通省、警察庁が後援し、当会議所の交通安全委員会の構成団体を中心とする会員団体や、開催趣旨に賛同する団体・企業などが参画し、自動車関係団体の交通安全啓発イベントとして定着しており、幅広い業種や分野から42の団体・企業が出展・協力いたしました。

テーマは「家族で広げよう交通安全」。家族で一緒に考え、ともに体験し、家族の絆を深めながら交通安全の大切さやルールを楽しく学べるよう、多彩な体験型ブースを用意し、子どもたちに好評のスタンプラリーを今回も実施いたしました。会場では、14ブースに来場者の列ができ、スタンプ用紙のチラシを手に一生懸命にブースを回る子供たちの歓声や笑い声があちこちから聞こえていました。また、ステージでは、警視庁のシンボルマスコット「ピーポくん」が子どもたちに交通安全を呼びかける「ピーポくんの交通安全教室」や、愛らしい盲導犬が障害物を避けたり段差や角を教えたりする「盲導犬ふれあい教室」などが行われました。

【洗車の日2013実施】

AAAL 主催の第5回「洗車の日」キャンペーン企画は、昨年度の 取組み内容を基本に実施いたしました。

本年度の取組みは「洗車を通じて、愛車を大切に乗り、事故防止に努める」事を、テーマに企画し、店頭にて、「洗車教室」を実施いたしました。

また、お客様に洗車用品を身近に感じてもらうために「各店舗工夫を凝らした売り場コンテスト」を実施。

【洗車教室】

株式会社ソフト99様の協力により、洗車教室を実施いたしました。

4月19日（金）オートバックス SA・湘南平塚

4月20日（土）イエローハット ふじみ野店

4月21日（日）イエローハット 木更津店

4月26日（金）ジェームス トレッサ横浜店

4月28日（日）オートバックス SA京都ワウワンダーシティ
ジェームス グリーンロード店



【報道説明会およびイベント】

4月26日（金）オートバックスSA東京ベイ東雲にて、報道関係者16媒体、23名にご参加頂き、今回の「洗車の日イベント」を説明し、同時開催としてシーシーアイ株式会社様による「洗車の日店頭イベント」を実施いたしました。



【売り場コンテスト】

お客様に「洗車用品」をわかり易く、提案することを目的に「売り場コンテスト」を実施いたしました。応募総数1039店舗のうち、50店舗を入賞、上位3店舗を優秀店舗として選出いたしました。

- 【最優秀店舗】 : イエローハット西軽井沢店
 【優秀店舗2店舗】 : ジェームス榎島店、
 オートバックス紋別店



イエローハット西軽井沢店



ジェームス榎島店



オートバックス紋別店

【売場コンテストベスト10店】

イエローハット長町インター店、イエローハット亀岡店、ジェームス171茨木店
 イエローハット水沢店、ジェームス千波店、イエローハット飯田店、オートバックス豊
 川店、ジェームス音更店、ジェームス厚別通店、イエローハット魚住店、オートバックス
 総社店、ジェームス小山神商店

【売場コンテスト入賞店】

イエローハット 西新井店、長崎深堀店、二本松油井店、水戸南店、水戸中央店、
 嵐山店、すみれが丘店、木更津店、茂原店、足利店、新潟亀田店、
 長岡店、川越的場店、富岡店、ピット100太田店、

オートバックス 四日市生桑店、トヨハシ南店、SA東福岡店、SA京都ワンダー店、
 SA高槻店、蔵王店、タカタヅカ店、松戸店、SA十日市場店、
 徳島上板店、SA七王子神谷店、志摩鵜方店、

ジェームス 西岡山店、西風新都店、鞍月店、富山東店、小松店、永山店、
 西条インター店、土浦南店

海外・国内・視察レポート

アジア自動車関連流通視察 報告書

- 企画／主催 オートアフターマーケット活性化連合 (AAAL)
 ■旅行企画実施 近畿日本ツーリスト(株) ECC 営業本部 第2 営業支店

- 期間／旅程 2013年6月26日(水)～7月2日(火) 7日間

1日目	6月26日(水)	移動日	バンコクへ
2日目	6月27日(木)	バンコク市内視察(自動車部品集積街、ハイパーマーケット) 「バンコク・インターナショナル・オートサロン2013」視察	
3日目	6月28日(金)	「オートボックス サトン店」視察 「日立化成 タイ工場」視察 移動 ホーチミンへ	
4日目	6月29日(土)	ホーチミン市内視察(自動車部品集積街)	
5日目	6月30日(日)	移動	ハノイへ
		ハノイ市内視察(自動車部品集積街)	
6日目	7月1日(月)	移動日	成田へ

■参加者(20名)

①堀江 康生	(株)イエローハット	代表取締役社長
②経森 康弘	(株)オートボックスセブン	取締役 副社長執行役員 チェン副本部長
③貴堂 郁	(株)オートボックスセブン	経営企画部
④朝原 満博	日立化成(株)	部長
⑤西脇 保彦	(株)ボンフォーム	代表取締役社長
⑥早馬 義光	エイケン工業(株)	代表取締役社長
⑦白神 博	(株)クレトム	代表取締役社長
⑧田邊 貴幸	(株)セイワ	専務取締役
⑨佐久間由治	錦産業(株)	常務取締役
⑩西脇 崇史	(株)ボンフォーム	取締役
⑪棚橋 公三	エステーオート(株)	代表取締役社長
⑫廣瀬 徳蔵	(株)プロスタッフ	代表取締役社長
⑬田中 毅	(株)ワーク	代表取締役社長
⑭志村 静雄	(株)アクレ	代表取締役社長
⑮人見 隆作	(株)エイチ.ピー.アイ	代表取締役社長
⑯長瀬 努	(株)キャロッセ	代表取締役社長
⑰山口 聡	(株)ブリッツ	代表取締役社長
⑱高瀬 峰雄	ブリッド(株)	代表取締役社長

①植草 正拓 日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会 事務局長

②中小路俊康 自動車用品小売業協会 事業推進部長

(添乗員 近畿日本ツーリスト 宮城和加子)

——バンコク・インターナショナル・オートサロン 2013——

会 期	2013年6月20日(木)～30日(日) 11日間 6月20日(木) プレス&ビジネスデー 6月21日(金)～6月30日(日) 一般公開
開催時間	月～金 12:00～21:30 土・日 11:00～21:30
会 場	インパクト・チャレンジャー ホール 2-3 (ムアントンタニ)
展示規模	4万㎡ (去年のほぼ倍)
主 催	インスパイヤ社 (タイ)
出展社数	400社以上
入 場 料	100バーツ (約300円)



自動車メーカーも多数出展し、展示規模倍増。本家サロンに近い内容で開催

今回で2回目を迎えた同ショーは、本格化するタイのモータリゼーションを象徴するように出展スペースは前回の倍に当たる4万㎡で開催した。

展示品はチューニングパーツやドレスアップパーツだけでなく、近年の東京オートサロンのように、大手自動車メーカーが最新のカスタムカーを展示。今年1月の東京オートサロンに出品されたショーモデルも42台が貸し出されるなど、会場内のムードは本家(東京オートサロン)に近いものとなった。



自動車メーカーはトヨタ、日産、ホンダ、マツダ、スバル、光岡自動車に加え、東京ショーには出展していない、いすゞやヤマハも参加した。

タイの自動車市場は従来からピックアップトラックのニーズが高く、同ジャンルはトヨタ、いすゞが人気を二分する市場。日本では見られなくなったいすゞの巨大ブースが見られるのはタイ市場ならではの。またヤマハは多数の二輪車を出展し、同国の巨大な二輪車市場に向けてPRを行った。

海外ブランドではランボルギーニ、ロータス、ベンツ、BMWなどの欧州勢が参加。さながらモーターショーのような華やかさも加わり、アジア各国で開催されているカスタマイズカーショーとは一線を画すイベントとなった。

一方、日本のアフターマーケット関連企業で、単独もしくは現地代理店を通じて出展していたのが、ワーク、キャロッセ、ブリッド、エンドレス、エンケイ、テイン、5ZIGEN、パイオニア、ソフト99 コーポレーション、エネオスなど。それに加え、NAPACブース、JETROパビリオンの共同出展ブースに多数の日本メーカーが出展した。

NAPACブースにはアルミホイールやスポーティングパーツなどを扱う会員企業31社の製品を展示。また今年から企画されたJETROパビリオンには、ボンフォーム、セイワなどJAAMA会員企業18社が共同出展（出展料は1社20万円）した。なおJETROパビリオンは、アジア諸国で開催される自動車関連見本市にも共同出展していく計画。



日本の出展企業がなじみにくい「会期」と「開場時間」

本家サロンとの最も大きな違いは会期と開場時間——会期は東京の場合週末の3日間だが、タイは11日間もの長丁場となる。また開場時間は東京が9時～18時であるのに対し、タイは平日12時～21時30分と夜間が中心となる。会期については「タイの大きな展示会は土日を2回入れるのが通例」、開場時間については「平日、仕事が終わってから来場する顧客のための措置」とする。日本からの出展者は「東京とあまり変わらない高い出展料に加え、11日間スタッフを配置するのが困難」とする。ただ、タイではオートサロンに限らず、展示会場で商品を販売するのが一般的。来場者もそれを目的にしているという。同ショーの場合も車両、タイヤ&ホイール、各種パーツ類は来場者に販売することが出来る。

「会期の長さは馴染みにくいですが、かかる出展費用は物販で埋め合わせ出来る。帰りの輸送コストも浮く」と、物販については歓迎するという声が聞かれた。

主催者について

バンコク・インターナショナル・オートサロンの主催者であるインスパイヤ社は、タイのスポーツメディア企業 Siam Sport Syndicate Public Co., Ltd のエンターテイメント部門で、日本の三栄書房（東京モーターショー主催者）と出版事業においてライセンス契約を締結、2010年5月から「OPTION」の現地版として「OPTION Thailand」を発行している。

●「オートボックス サトン店」視察

オートボックスのタイ事業は、1999年6月にオートボックス(タイランド) Co., Ltd 設立後スタートした。一号店は2000年6月の「オートボックスサトン店」。以降「パタナカン店」「チェーンワッタナ店」「シラシャ店」をオープンし、現在4店舗を展開する。2006年には現在のサイアムオートボックス Co., Ltd に社名変更。今回訪問したサトン店はバンコクの中心部に立地する基幹店。タイヤ、オイル、バッテリーの売上構成比は60%以上。タイヤ、オイル、バッテリーは現地で仕入れ、カーアクセサリーは日本から輸入している。面談者はサイアムオートボックス Co., Ltd 社長の西田敏正氏。



●「日立化成 タイ工場」視察

日立の自動車用バッテリーを製造する工場。創業は2010年8月。資本金は10億円。新神戸電機の100%出資会社で投資額は20億円。従業員は130名のうち6名が日本人。ロケーションはバンコクから東に100km離れた工業団地で、近隣にトヨタ、日産、三菱の自動車製造工場がある。敷地面積は5万1000㎡で、建屋は1万1000㎡。バッテリーの生産能力は年間100万個だが、現在は約60万個を生産、今期末よりフル生産体制に入る。現地では日産マーチ、三菱ミラージュにバッテリーを供給している。そのほか高機能バッテリーとなるISS車用バッテリー(従来品に比べ充電受入れ性能は1.5倍、寿命は2倍)もここで生産している。なおタイ進出に際しては、法人税が7年間免除、製造装置を輸入する場合は関税が免除される。



●自動車部品街「バタコーン」視察

バンコク市内の自動車部品集積地区。店舗は約50~60店舗。タイヤ、ホイール、シートのほか中古のエンジンパーツを取り扱うショップが軒を連ねている。取り付け作業を行うピットはなく、作業は路上で行われている。NAPACメンバーによれば「ホイールは中国製のコピー商品が大半」とのこと。



●ハイパーマーケット「TESCO Lotus」

テスコロータスはタイと中国に展開するスーパーマーケットチェーン。設立は1998年で、本社はバンコクにある。タイのCPグループとイギリスのスーパーマーケットチェーン店のテスコのジョイント・ベンチャーとして設立。タイ国内の店舗数は55店舗、うち24店舗がバンコク市内にある。オイル、車内小物、洗車関連用品などカー用品部門も充実しており、訪問した店舗では gondola 本数で60本程度を割り当てていた。



●ホーチミンの自動車部品集積街「アンジュンブン」

ホーチミン市内の自動車部品集積街。店舗は市内の目抜き通り沿いに広がっており、店舗は100店舗以上。歩道はおびただしい数の二輪車の駐輪場になっており、歩行者は車道に降りながら歩かざるを得ないほど。その歩道および店舗前の車道はショップの作業場になっており、段ボールやシートの切れ端などが散乱している。その集積地の一部に新車ディーラーがあるがピットはない。10数年前の中国の都市部の自動車部品街を思わせる。



●ハノイの自動車部品集積街「ハイパーツン」

ベトナムの市民の足は車よりもバイク。ハノイの自動車部品集積街はそうした需要もカバーするため、二輪車用、四輪車用部品の店が軒を連ねている。新品はほとんどなく、各種パーツは中古品がほとんど。団員からは「タイに比べ数年は遅れている」という声が多かった。



(参考資料)

——タイの自動車生産販売について——

〈生産台数が初めて 200 万台を突破し 245 万台に〉 タイの 2012 年の自動車生産台数は 245 万 4000 台となった。2012 年 11 月 30 日には初めて 200 万台を突破したことを祝う記念式典が開かれた。2011 年の大洪水の影響で先送りされていた新車需要のほか、初回の新車購入に対する物品税の還付措置が需要を押し上げた。

〈世界 10 位の自動車生産国に〉 タイ工業連盟 (FTI) 自動車部会は、2012 年の自動車生産台数が前年比 68% 増の 245 万 4000 台に達し、自動車生産国として世界 10 位になったと発表した。東日本大震災と大洪水に直撃された 2011 年を 100 万台近く上回った。2011 年 12 月から回復を続け、2012 年 2 月に大洪水後初めて前年同月を上回り、3 月には月間生産台数として過去最高を記録。5 月以降は 8 カ月連続して月間 20 万台以上の生産となり、10、11 月はいずれも 25 万台超の生産となった。11 月 30 日には初めて 200 万台を突破したことを祝う記念式典がバンコク郊外で開かれた。

〈販売台数は前年比 80% 増〉 タイ国トヨタ自動車が発表した 2012 年の国内新車販売台数は、前年比 80.9% 増の 143 万 6000 台。大洪水の影響で先送りされていた新車需要のほか、初回の新車購入者に対する物品税還付が新車需要を刺激した。物品税の還付措置は、1500cc 以下の乗用車

またはピックアップトラックを初めて購入する人に対して10万パーツ（約30万円）を上限に物品税を還付するというもので、80万台分の自動車購入者が還付を申請したもよう。

〈タイの自動車輸出、世界7位に〉 FTI自動車部会の発表によれば、2012年の自動車完成車の輸出台数は102万3371台を記録し、1988年に輸出を開始してから初めて年間100万台を突破した。前年を40%上回り、タイは世界7位の自動車輸出国となったという。

〈タイ、2013年は250万台の生産を見込む〉

2013年の国内販売について日系各社は、政府の新車購入スキームが将来の需要を先食いしたため、反動減が予想されるとして、約120万台と見込んでいる。タイに生産拠点を持つ主要メーカーはタイを輸出拠点としても活用している。2012年は輸出生産を犠牲にして国内販売用の生産を強化してきたが、2013年は正常な水準に戻す考えで、輸出台数は堅調に伸びると予想している。また2013年のタイの自動車生産についてはFTI自動車部会では前年比5%増となる250万台と見ている。

「2012年 世界主要国の自動車生産販売動向」（2013年4月発行 JETRO 海外調査部）

——ベトナムの自動車販売について——

〈2012年の販売台数、5年ぶり10万台割れ〉 ベトナム自動車工業会（VAMA）は、2012年の新車販売台数（輸入車含む）が前年比33%減の9万2584台になったと発表した。5年ぶりに10万台を割り込んだ。国内景気減速に加え、関連費用などの値上げが響いた。ハノイ市やホーチミン市が昨年1月に乗用車登録料を引き上げたことから、購入を手控える個人消費者が増加。乗用車の販売台数は44%減に落ち込んだ。自動車にかかる税金も近隣国より高く、自動車販売が好調な東南アジアで唯一、市場縮小が起きている。ベトナム政府は1月から、自動車やバイクの保有者を対象に道路使用料の徴収を始めた。「再び販売不振を招く」（日系自動車メーカー）との懸念が広がっている。（2013年1月19日 日本経済新聞）

〈新車販売、5月は41.6%増の9,731台〉 ベトナム自動車工業会（VAMA）が発表した現地組立メーカー19社による2013年5月の新車販売台数は、前年同月比43.5%増の8201台となった。車種別では、乗用車（SUV/MPV/クロスオーバーを含む）が71.3%増の4705台、商用車が17.8%増の3496台。1～5月累計は前年同期比16.8%増の3万4893台で、乗用車が36.2%増、商用車が2.8%減となっている。VAMAでは、自動車登録料が15%から10%に引き下げられたことがプラス要因であるとし、登録料が同水準で維持される前提で、2013年通年の販売予測を10万台から10.8万台に上方修正した。輸入車およびVAMA未加盟メーカーを含む総販売台数は、5月単月が41.6%増の9731台で、このうち、ノックダウン（CKD）生産車は1%増の7478台にとどまり、完成車（CBU）が61%増の2253台と伸びている。1～5月累計の総販売台数は10.4%増の4万145台。メーカー別では、首位のトヨタが73.9%増の2786台で、総販売台数に対する市場シェアは28.6%。売れ筋モデルは「フォーチュナー」が681台、「カローラ」が536台、「イノーバ」が504台など。2位のチュオンハイは23.2%増の2338台でシェアは24.0%。自社ブランドのトラックが1540台、バスが60台、起亜モデルが738台（うち「ピカント」が385台）となっている。このほか、フォードは「フォーカス」が159台、「トランジット」が138台、「レンジャー」が134台などと好調。スズキは小型トラック「キャリイ」シリーズを328台、ホンダは

「CR-V」を198台売り上げている。マツダは「Mazda2」（デミオ）が52台、「Mazda3」（アクセラ）が46台などと伸びている。（2013年6月13日 マークライズ(株)自動車産業ポータル）

欧州自動車関連流通視察 報告書

- 企画／主催 オートアフターマーケット活性化連合（AAAL）
 ■旅行企画実施 近畿日本ツーリスト(株) ECC 営業本部 第2 営業支店

■期間／旅程 2013年9月20日（金）～9月27日（金） 8日間

1日目	9月20日（金）	成田出発	ドイツ	フランクフルトへ
2日目	9月21日（土）	フランクフルト・モーターショー視察		
3日目	9月22日（日）	チェコ	プラハへ移動	プラハ国立技術博物館視察
4日目	9月23日（月）	シュコダ工場・博物館視察		
5日目	9月24日（火）	イギリス	ロンドンへ移動	プロドライブ視察
6日目	9月25日（水）	ウィリアムズ視察	ヘリテージ・モーター・センター視察	
7日目	9月26日（木）	ロンドン市内視察後 成田へ		
8日目	9月27日（金）	成田到着後解散		

■参加者（19名）

＜敬称

略＞

①	経森 康弘	(株)オートボックスセブン	取締役 副社長執行役員	チェン副本部長
②	平山 和弘	(株)オートボックスセブン	部長	
③	大橋 正敏	(株)タクティー	取締役	
④	池川 寛	コアーズインターナショナル(株)	代表取締役社長	
⑤	住野 泰士	(株)オートボックスフィナンシャルサービス	代表取締役会長	
⑥	西脇 保彦	(株)ボンフォーム	代表取締役社長	
⑦	鈴木 弘一	(株)カーメイト	取締役 専務執行役員	
⑧	白神 博	(株)クレトム	代表取締役	
⑨	田邊 貴幸	(株)セイワ	専務取締役	
⑩	米澤 美樹雄	錦産業(株)	常務取締役	
⑪	東山 克基	(株)ミラリード	代表取締役社長	
⑫	棚橋 公三	エステーオート(株)	代表取締役社長	
⑬	柏木 信哉	(株)プロスタッフ	取締役 営業部 本部長	
⑭	淵田 昌嗣	武蔵ホルト(株)	社長執行役員	
⑮	田中 毅	(株)ワーク	代表取締役	
⑯	高瀬 峰雄	ブリッド(株)	代表取締役	
⑰	人見 隆作	(株)エイチ・ピー・アイ	代表取締役	
⑱	植草 正拓	日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会	事務局長	

— 9月21日(土) IAA2013 フランクフルト・モーターショー視察 —

<モーターショー概要>

- ・会 期 2013年9月10日(火)～22日(日) 13日間
- ・開催地 ドイツ フランクフルト
- ・会 場 フランクフルト見本市会場 (Messe Frankfurt)
- ・入 場 料 137.5ユーロ (3日間入場券)

フランクフルト・モーターショーは、ドイツのフランクフルトで奇数年に開催される世界最大のモーターショーである。正式名称である国際モーターショー (Internationale Automobil-Ausstellung)の頭文字をとって IAA と呼ばれ、主催はドイツ自動車工業会 (VDA) となっている。

今回のショーでも国産車勢の日産『インフィニティ Q30 コンセプト』、トヨタ『レクサス LF-NX』、『ヤリス ハイブリッド R コンセプト』、ホンダ『シビックツアラー』やスズキのコンセプトカー『iV-4』、海外勢のメルセデス『コンセプト S クラスクーペ』、『GLA クラス』、VW『e-ゴルフ』、アウディ『ナヌークワトロコンセプト』、『新型 A3 カブリオレ』、BMW『i8』、スマート『four joy』、ルノー『新型メガーヌ』、シトロエン『グランド C4 ピカソ』、プジョー『308 コンセプト』、『208 ハイブリッド FE コンセプト』、フェラーリ『458 スペチアーレ』、ジャガー『C-X17』といった多くのワールドプレミアが出展されていた。

また、多くの自動車メーカーの展示車両は、エンジンのダウンサイジング化 (小排気量ガソリンターボ)、ヨーロッパ車のおよそ6割を占めるディーゼルエンジンをはじめ EV、HV、PHV (コンセプトカー) といった環境対応型のパワートレインを搭載する車が主流となっている。さらにもう一つ今回自動車メーカーが注力しているのが新興国での需要が見込め収益性も高いという理由から、小型高級車市場であると聞いている。

我々が訪れたのは、期間最後の週末土曜日ということで入場者数も非常に多く、一部の展示ホールでは入場制限が行われるほどであった。中でも地元ドイツの自動車メーカーは、広大なブースを展開。自国ブランドということなのか人気も高く、足の踏み場もないほのにぎわいを見せていた。今年は東京モーターショーの開催年、この流れがどのように日本に影響を及ぼすのか楽しみである。



I A A 2013 フランクフルトモーターショー会場前にて



今回入場パスの手配をいただいたポッシュブースにて、同社
が取り扱う部品の説明を受ける参加者



ワールドプレミアの1台「458 イタリア」の高性能仕様



自動車メーカーでのホイールの差別化を謳う展示



日本国内と同様にブルーを基調にハイブリッドを前面に
打ち出したトヨタブース



頭上を車が走り抜ける BMW ブース



日本国内ではまず見ることのないルーマニアの自動車メーカー スバルブースにて、元祖国民エコカー「スバル 360」
ルノーグループのダチア

—— 9月22日（日）プラハ国立技術博物館視察 ——

2011年にリニューアルオープンした施設。1階の広大なホールには、貴重なレーシングカーや自国の自動車メーカーを中心とした新旧のクルマのみならず機関車や英国スピットファイヤー戦闘機といった『乗り物達』が所狭しと鎮座、更に高い吹き抜け部分には複葉機、グライダー、大戦時代の戦闘機、ヘリコプターなどが展示されており入館した瞬間から来場者を圧倒する迫力である。



このフロアを囲むように、壁際に沿って3層の展示スペースがあり、下からモーターサイクル、船舶関連及び航空機等の各種エンジン、最上段が自転車といった展示内容で、その数は 5,500 点にも及ぶという。

そのほか、別室には特別コーナーが設けられており、訪問時には TV 放映に関する機材等の歴史についての展示が行われていた。

日本からの来場者は非常に少ないと聞くと、旧東ヨーロッパ圏に於ける工業技術の歴史と進歩を自動車関連だけでなく航空機、機関車など時代を追って見学することができ、当時のヨーロッパ最前線の技術とデザインを駆使した逸品の数々を十二分に堪能することができた。

—— 9月23日（月）SKODA（シュコダ）博物館・自動車工場視察 ——

シュコダ自動車の歴史は長く、1895年に自動車愛好家であった技師ヴァーツラフ・ラウリンと本屋ヴァーツラフ・クレメントが設立した自転車メーカー「ラウリン&クレメント」社がその起源。

その後、自転車にエンジンを取り付けたモーターサイクルから本格的なモーターサイクルの生産を行うようになり、その収益で自動車の生産に取り組み、紆余曲折の末、現在の社名であるシュコダとなり1991年にVWグループの傘下に入り現在に至る。今回の視察先となるシュコダ自動車はチェコのムラダー・ボレスラフ村にその本拠地を置く。



日本国内では馴染みの薄い自動車メーカーということもあり、工場視察の前にシュコダの歴史を知るべく、まずは併設されている自動車博物館の視察を行った。館内には綺麗に仕上げられた各種年代の車および起業時のエンジン付き自転車が展示されている。

なお、展示車両のレストア作業も同社が行い、それらの完成までの作業工程について実際の車両を使った展示も行われていた。

現在では大衆車としてのカラーが強い同社ではあるが、過去にはプレミアムカーも手掛けるなど、初めて知ることも多く非常に興味深いものだった。

また、ラリー等のモータースポーツに関する取り組みの歴史も長く、過去の貴重なモデルたちも見ることができたことが大きな収穫である。



その後、シュコダ自動車の部品製造及び組み立て工場を視察した。シュコダ社は旧東ヨーロッパ圏の中でも高い技術力を誇る自動車メーカーで今回は部品の製造から組み立てラインまで行っている広大な工場内を廻り、広報担当のガイドにより詳しく説明を聞いた。

特に、一般的に他の自動車工場では、金型等の機密保持のために公開されないプレスラインについて

も視察することができたことは驚きである。ここで働く工員の平均年齢は約27歳と若く、組み立てラインでは女性の姿が目立った。

また、日本の工場と比較すると工員の人数が多く、手作業に委ねる部分が多いと感じた。

なお、シュコダ自動車は年間94万台が生産されており、約94%が他の国へ輸出されているほか、国内シェアは、年々下降気味で現在約32%とのこと。 ※工場は撮影禁止の為画像無し

——9月24日（火）プロドライブ視察——

プロドライブ社は、1981年のWRCチャンピオンであるアリ・バタネンのコ・ドライバーであったデビッド・リチャーズが1984年にわずか4名でスタートした。その後、高い技術力により5つのWRCチャンピオン、5度にわたるBTCCチャンピオンをはじめ、各種タイトルを獲得する。現在では世界を代表するファクトリーとなってお





り、ラリーやレースで培った沢山のノウハウを背景とした最新の技術開発力は、モータースポーツ業界はもちろんのこと、世界中の自動車業界にも大きな影響を与えるに至っている。

現在、同社はモータースポーツ活動を軸に、エンジンやトランスミッション、シャシー、エレクトロニクスなどの研究開発・コンサルティングを行うほか、

オリジナルの公道用向けパーツやレース車両等の生産・販売なども行っている。

本社は、F1やWRCをはじめとする国際レースで走るマシンの75%が作られるという3,000社もの専門企業が存在するイギリスモータースポーツの中心地「モータースポーツヴァレー」にある。

まずは、アストンマーチン、ポルシェ、フェラーリ、スバルといった歴代のレーシングマシンが展示されたコレクションホールを、その後ボディワーク、エンジン、電装関係といった実際に作業を行っているファクトリー部門の視察を行った。BMW ミニのラリーカーやアストンマーチンのレースカーの配線製作に1名が2週間掛けて行うほか、エンジン部品であるクランク、クランクシャフト、コンロッド、足回りのアッパー&ロアアームの加工など一品一品を熟練の作業員が時間を掛けて手作業で行う。一分一秒を争うモータースポーツならではの世界を垣間見た。

——9月25日（水）ウィリアムズ視察——

ウィリアムズはF1のレーシングチームで1977年にフランク・ウィリアムズとパトリック・ヘッドにより設立され、正式名称はウィリアムズ・グランプリ・エンジニアリング、英国内で最も成功したコンストラクターの一つに数えられる。

その前進は1966年にフランク・ウィリアムズにより設立されたフランク・ウィリアムズ・レーシングカーズになる。

創業者兼マネージャーであるウィリアムズは、1986年の交通事故により下半身麻痺となり車椅子生活となったことから「車椅子の闘将」のニックネームで呼ばれる。

また、彼は英国企業としての世界的な活躍が認められ勲章を授与されたほか、フランスからもルノーとの協力に対する功績が認められたことによる受勲者でもある。

ウィリアムズは過去、日本の自動車メーカーとも提携を行なっている。1984～1987年にはホンダがターボエンジンを供給、輝かしい成績をいくつも残している。また、1980年代は大手スポンサーであるキャノンカラーを纏ったマシンが深く記憶に残っている。

2007年～2009年トヨタと提携していた。トヨタよりエンジン供給を受け中嶋一貴がステアリングを握ったのも有名な話である。

近年では、2012年より15年ぶりにルノーがエンジンを供給、今シーズンもウィリアムズ・ルノーとして活動を行っている。また、2014年からはメルセデスからエンジン供給を受けることを発表している。

今回、訪れた施設は2フロアあり1階に歴代のフォーミュラカーをメインに展示。同社が手がけた歴史的価値のあるレーシングマシンが綺麗に仕上げられ、年代別に並べられており、その展示方法も含めモータースポーツ愛好者にとっても素晴らしい空間となっている。

2階には優勝カップや歴代のドライバーのヘルメット等、貴重なコレクションの品々が数多く飾

られている。鈴鹿F1時のカップも展示されており、実際に手に触れることが出来たのには驚いた。

今回は専門のガイドのついた視察コースとなっており、終了後には売店でグッズ販売までがセットになっている。コレクションの維持も含め、こういった部門も重要な収入源になっているのではないかと推測される。

—— 9月25日（水）ヘリテージ・モーター・センター視察 ——

ヘリテージ・モーター・センターは、英国のほぼ中央、ウォリックシャー州ゲイドンにある。ブリティッシュ・モーター・インダストリー・ヘリテージ・トラスト（BMIH T）によって運営されている。長い歴史を経てローバーグループへと統合・合併の道歩んだ各メーカーの記録や車両、その他の品々を収集、保存することを目的としてBMIH Tは設立されたとのこと。元来は1975年にレイランド・ヒストリック・ヴィークルズの設立によって誕生したが、後にBLヘリテージと名を替え、さらに1983年にBMIH Tとなり現在に至っている。



従来の自動車博物館とは全く異なり、大人から子供まで幅広い年齢層の来館者が楽しくかつ教育的に意義のある体験をすることが運営目的とあって、実際の入場者も老若男女とバラエティーに富んでいた。

交通博物館としては英国最大規模を誇り敷地は65エーカー（約79,560坪）。上から見ると車のタイヤ（ホイール）を模した円形となっているアール・デコ様式の建物内には1896年の創生期から今日に至るまでの英国自動車産業の発展を系統立てて物語る約350台の車を所有、その中から200台程度が常時展示されている。



英国車が一番輝いていた1950～1960年代を代表するMG、オースチン、モーリス、ランドローバー、ローバー、ウーズレー、ジャグア、ディムラー、ランチェスター、ロールスロイス、トライアンフ、ライレー、スタンダード、オースチン・ヒールレーのほか珍しいところでは、アルビオン、ソーニクロフト、トロージャン、レイランド等々の各モデルが数多く展示されており圧巻の様相。

また、映画に登場した車やF1、ル・マン24時間耐久レース、モンテカルロラリーなどのモータースポーツで活躍した車も多く展示されていた。

その他、車両やエンジンのカットモデルの展示、車に関連した時代を反映した映画の放映なども行なわれていた。

2007年に170万ポンドをかけて改築時に作られた中2階フロアには、アストンマーチンの特設コーナーがあり、特徴的なダブルバブル形状のルーフ、ボンネットを持つ生産台数僅か101台のV12ザガートモデルの展示もあった。

博物館外の敷地内では、専用のコースを走るランドローバー・オフロード試乗体験なども行なわれている。

かつて一世風靡した英国車の創生期、成長期、成熟期そして衰退期を知ることが出来る施設であった。

——まとめ——

今回のツアーでは3カ国を回り、それぞれ自動車に関連した工場や施設6か所の視察を行った。特に東ヨーロッパであるチェコでのプラハ国立技術博物館とシュコダについては、どちらも日本人にとって非常に馴染の薄いものだっただけに新鮮に感じたというのが参加者からの多くの感想であったと思う。

また、最新鋭の技術の粋を集めた自動車達が並ぶ華やかなフランクフルト・モーターショーを見た後の英国ヘリテージ・モーター・センター視察は自動車産業の光と影を見た気がし感慨深いものであった。

とは言うものの、現代においても英国のモータースポーツ関連企業は世界的にもシェアも含めトップクラスであり、今回のプロドライブやウィリアムズを見ても世界規模でのマーケットを確立しており、そして活躍している。

どの視察先とも単純に日本との比較は出来ないと思うが、自動車に関わる仕事を行っている参加者にとって多くの収穫のあった1週間であった。

以上

国内自動車関連業者視察 報告書

■企画／主催 オートアフターマーケット活性化連合（AAAL）

■期間 2013年10月30日（水）～10月31日（木） 2日間

1日目	10月30日（水）	日産自動車横浜工場
		関東陸運局鮫洲試験場
2日目	10月31日（木）	かわさき市エコ暮らし未来館
		日産自動車追浜工場

■参加者（18名）

①高瀬 基充	（株）オートボックスセブン	商品企画管理部 品質管理担当
②飯塚 正明	（株）オートボックスセブン	内部統制管理部 課長
③田中 伸尚	（株）オートボックスセブン	総務部 環境管理担当
④菊池 孝史	（株）イエローハット	メンテナンス・アクセサリ商品部 係長
⑤井浦 昌之	（株）タクティー	用品部カーグッズ室 室長
⑥権現 領慎	（株）タクティー	管財室
⑦奥山 健治	トピー実業（株）	消費財営業部長
⑧高瀬 嶺生	ブリッド（株）	代表取締役
⑨平瀬 泰宏	東洋エレメント工業（株）	開発技術課員
⑩土井 弘樹	東洋エレメント工業（株）	開発技術課員
⑪伊井 秀彰	（株）ナポレックス	取締役営業企画室長
⑫津屋 和夫	特殊電装（株）	会長
⑬長谷川 浩之	（株）エッチ・ケー・エス	代表取締役社長
⑭中小路 俊康	自動車用品小売業協会	
⑮山下 睦	自動車用品小売業協会	
⑯植草 正拓	日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会	

——10月30日（水）日産自動車株式会社横浜工場——

日産横浜工場は、エンジンやサスペンション部品を生産するユニット工場です。エンジンの生産ラインのほか、創業時の館棟をそのまま維持した「日産エンジンミュージアム」の見学を行いました。このミュージアムは日産自動車の歴史が展示され、エンジンの変遷も見る事ができました。

横浜工場の「エンジン組立ライン」内の、最新の「MR型



エンジン」(直列4気筒、排気量1800及び2000cc)の生産ラインの見学をいたしました。このエンジンはルノー社との共同開発プログラムに沿って開発されたエンジンで、日産自動車の最新の環境技術が数多く採用されています。最新の「モノづくり」の生産技術を見学し、実際のエンジン組立ラインに採用されている「モノづくり」の工夫のうちの一つの簡単な装置を展示され実演していました。見学者も実際に体験していただける楽しいコーナーになっています。

2008年1月からは新型NISSAN GT-Rに搭載されている「VR38型エンジン」の組立工程の見学もできました。「MR型エンジン」などの量産型エンジン生産の流れ作業方式とは異なり、クリーンな作業室内で熟練作業者が一台一台丁寧に組立てるシーンを見学いたしました。



——10月30日(水) 東京運輸支局鮫洲試験場——

品川にあります東京運輸支局、「鮫洲試験場」には、関東自動車検査法人の事務所もあり、見学の際に車検の問題点・注意点・および最新の機器について勉強会をしていただきました。車検の流れを理解した上で、実際にどんなところをチェックしているのかをじっくり見学し、主に外観・灯火類検査、サイドスリップ検査、スピードメーター検査、ブレーキ検査など見せていただきました。



——10月31日(木) かわさき市エコ暮らし未来館——

「かわさきエコ暮らし未来館」では、地球温暖化、再生可能エネルギー、資源循環の3つのテーマを中心に、環境を守るためにはどうしたらよいかを具体的に体験しながら学びました。また「川崎市のごみ処理」を見学し、回収してきた一般ごみを分別し再生する工場の見学を致しました。



また、川崎では大規模太陽光発電所（ソーラーパネル）を、東京電力株式会社の共同事業で、川崎市の浮島と扇島の両地区で設置してあり、その浮島の発電所を見学いたしました。

発電量は一般家庭の約 5900 軒分の年間使用電力量に相当します。



—— 10月31日（木）日産自動車株式会社追浜工場 ——

追浜工場では、2010年から電気自動車（EV）「日産リーフ」の生産を開始しました。EVの生産は、特別な専用ラインではなく、通常のクルマと同じラインでの混流生産を行っています。

追浜工場は今後グローバルで生産されるEVのマザー工場や、専用埠頭の見学をいたしました。



【まとめ】

本年度の業者視察は従来の産業廃棄物業者から、国内の自動車産業に関する施設という観点で企画をいたしました。はじめて自動車の生産ラインの見学をされた方は、非常に良い経験になった事と思います。厳しい経営環境の中で見聞を広めるという観点は従来の目線を変えるきっかけにもつながり、それが経営のお役に立てれば良いと考えています。

今後も、国内産業に目を向けて旬な情報をご提供できるように企画していきます。

平成25年度役員について

平成25年度 一般社団法人自動車用品小売業協会 役員一覧

【役員】

- 会 長 : 堀 江 康 生
(株式会社イエローハット代表取締役社長)
- 副会長 : 新 井 範 彦
(株式会社タクティール取締役)
- 理 事 : 真 鍋 利 明
(ブリヂストンリテールジャパン株式会社代表取締役社長)
- 理 事 : 瀬 古 正
(株式会社クラフト代表取締役)
- 理 事 : 橋 口 高 志
(住友ゴム工業株式会社ダンロップタイヤ営業本部消費財部長)
- 理 事 : 黒 川 泰 弘
(株式会社ヨコハマタイヤジャパン取締役販売促進部長)
- 理 事 : 小 原 敏 成
(株式会社トーヨータイヤジャパン営業本部消費財販売部部長)
- 監 事 : 遠 藤 文 樹
(株式会社フジ・コーポレーション代表取締役社長)
- 最高顧問 : 住 野 公 一
(株式会社オートバックスセブン相談役)

平成25年度会員数の増減について

入退会 企業一覧

正会員	
入会	なし
退会	株式会社あしだ

賛助会員	
入会	I P F 株式会社 近畿日本ツーリスト株式会社 セルスター工業株式会社 東光特殊電線株式会社
退会	アドバンスセキュリティー株式会社 株式会社エフ・イー・シーチェーン 株式会社K S G 総合警備保障株式会社 株式会社サンエスオペテック 中発販売株式会社 株式会社トライウィン 株式会社メルモ

2013年3月31日現在会員数

正会員数 16社

賛助会員数 116社

2014年3月31日会員数

正会員数 15社

賛助会員数 112社

平成25年度決算書について

平成25年度予算実績

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

科 目	25年度予算	25年度実績	予算差額	備考
I 収入の部				
会費収入(正会員)	13,688,000	13,673,000	-15,000	
会費収入(賛助会員)	12,700,000	12,570,000	-130,000	
その他収入		88,846	88,846	
受取利息		1,298	1,298	
自販機	8,500,000	4,997,462	-3,502,538	
繰越金			0	
当期収入合計(A)	34,888,000	31,330,606	-3,557,394	
II 支出の部				
外注加工費	560,000	576,145	16,145	
荷造運賃	360,000	481,168	121,168	
会議費	7,500,000	7,683,336	183,336	
旅費交通費	1,400,000	2,743,200	1,343,200	
諸会費	120,000	120,000	0	
支払報酬料	240,000	540,750	300,750	
交際費	240,000	237,982	-2,018	
広告宣伝費	100,000	42,000	-58,000	
自販機設置手数料	6,500,000	3,893,407	-2,606,593	
研修	200,000	157,500	-42,500	
販売促進費	800,000	1,104,138	304,138	
事業費計(B)	18,020,000	17,579,626	-440,374	
給料手当	8,500,000	8,430,962	-69,038	
通信費	900,000	890,836	-9,164	
備品消耗品費	840,000	799,232	-40,768	
水道光熱費	540,000	489,994	-50,006	
新聞図書費	250,000	220,662	-29,338	
支払手数料	360,000	463,162	103,162	
地代家賃	3,960,000	3,639,429	-320,571	
リース料	780,000	754,215	-25,785	
保険料	20,000	29,960	9,960	
租税公課	0	82,650	82,650	
支払報酬料	650,000	663,571	13,571	
寄付金	0	210,146	210,146	
雑費	68,000	62,633	-5,367	
管理費計(C)	16,868,000	16,737,452	-130,548	
販売管理費(D)	34,888,000	34,317,078	-570,922	
営業損益(A)-(D)	0	-2,986,472		

平成25年度 貸借対照表

平成26年3月31日まで

科 目	前期繰越	当期残高	増減	備考
現金	376,637	363,757	-12,880	
普通預金	10,211,311	4,486,412	-5,724,899	
現金・預金合計	10,587,948	4,850,169		
貯蔵品	1,390	0	-1,390	
棚卸資産合計	1,390	0		
前払費用	0	0	0	
未収入金	8,075,835	0	-8,075,835	
他流動資産合計	8,075,835	0		
敷金	1,731,432	1,731,432	0	
固定資産	1,731,432	1,731,432		
資産合計	20,396,605	6,581,601		
未払金	13,477,871	1,084,247	-12,393,624	
預かり金	11,474	11,618	144	
仮受金	0	1,564,948	1,564,948	
流動負債合計	13,489,345	2,660,813		
負債合計	13,489,345	2,660,813	-10,828,532	
繰越利益	6,907,260	6,907,260		
当期純損失	0	-2,986,472		
繰越利益剰余金	6,907,260	3,920,788		
純資産合計	6,907,260	3,920,788		
負債・純資産合計	20,396,605	6,581,601		



東京都港区芝5-1-7 HTビル3F

一般社団法人

自動車用品小売業協会 (APARA)

TEL : 03-3454-1427

FAX : 03-3454-1564

URL : info@apara.jp